

バリウムの流しのポイント

体位変換：透視台を逆傾斜にさせ、第2斜位から正面、そして第1斜位へ変換させる。

対象部位：胃角（後壁小彎寄り）。

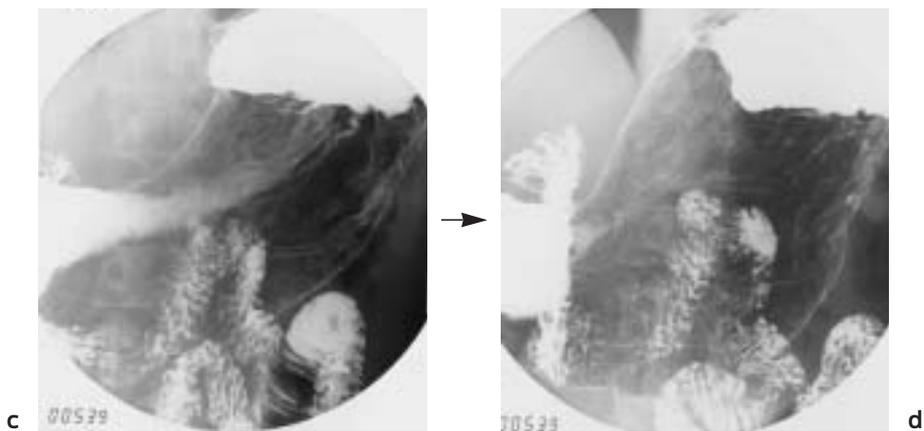
流れる領域：胃角部小彎および小彎後壁寄り。

透視：逆傾斜をかけ、息を吐かせながら体位変換するとより小彎寄りを観察できる。



息を吐かせて撮影

いったん前庭部にためたバリウムを頭下げながらゆっくりとバリウムを流してくる。そのとき息を「ハー」と吐かせると、より小彎寄り流れる。再度右をゆっくり向かせ、バリウムを退かせたところで、椎体ははずして撮影したものである。



椎体の右にはずすと確認しやすい

a, bと同じ撮影法である。

図70 胃角：後壁小彎寄り